

2026年4月10日

**【SUPER GT 第1戦 /岡山国際サーキット】  
大会直前情報**

4月11日(土)、12日(日)、2026年のSUPER GTが岡山国際サーキットを舞台に開幕します。今シーズン、GT500クラスでは1台、GT300クラスでは17台がヨコハマタイヤを装着し、全7戦を戦い抜きます。

SUPER GTの前身である「全日本GT選手権」の時代から、日本のトップツーリングカーカテゴリーは複数のタイヤメーカーが参画し、その性能を競うマルチメイクの戦いが続いていましたが、2027年からワンメイクとなることが昨年発表されました。今シーズンはタイヤコンペティションのラストイヤー。ライバルがいたからこそ鍛え上げられたタイヤで、両クラスで勝利を目指します。

GT500クラスは、「WedsSport BANDO GR Supra(国本雄資選手/阪口晴南選手)」の1台への供給となります。昨年は第3戦マレーシア大会、スプリントレースのフォーマットで行われた第4戦富士大会 Race1の2戦でポールポジションを獲得し、予選での速さを発揮。シーズンオフに行われたテストでは、昨年の戦いで見えた課題を熟慮し、チームと入念なミーティングを重ねながら1歩ずつ進んできました。シーズン中も開発を進めていけるのがタイヤコンペティションの魅力。シーズン中も進化を重ね、力強い走りを見せて結果につなげることがテーマです。

GT300クラスは17台がヨコハマタイヤユーザーとなります。公式テストはシーズン中とは違い気温が低かったのですが、構造面、ゴムの面ともにできる限りのチャレンジをしてきました。ヨコハマユーザーは10車種と多様な分、開発も困難ですが、昨年よりも高性能なタイヤが用意できたと自負しています。2024年以來のチャンピオン奪還に向けて挑戦します。

開幕の舞台となる岡山国際サーキットでは、3月上旬に第1回の公式テストが行われ、今シーズンを戦う全車両が初めて揃う機会となりました。あいにくの曇天で凍えるような寒さの中の走行で、ヨコハマタイヤ勢はトップタイム奪取とはならなかったものの、最高気温が20度を超えると予想されている今大会とはコンディションが大きく異なるため、テストの結果がそのまま開幕戦の結果に反映されるとは限りません。富士スピードウェイでのテストも経て、各チームは進化を遂げています。

「晴れの国岡山」のキャッチフレーズにふさわしい天候のもとで行われる 2026 年の SUPER GT 開幕戦。タイヤコンペティション最終年を最高のシーズンにすべく、ヨコハマタイヤは全力で挑みます。

